

キトラ古墳出土銀装大刀の復元品

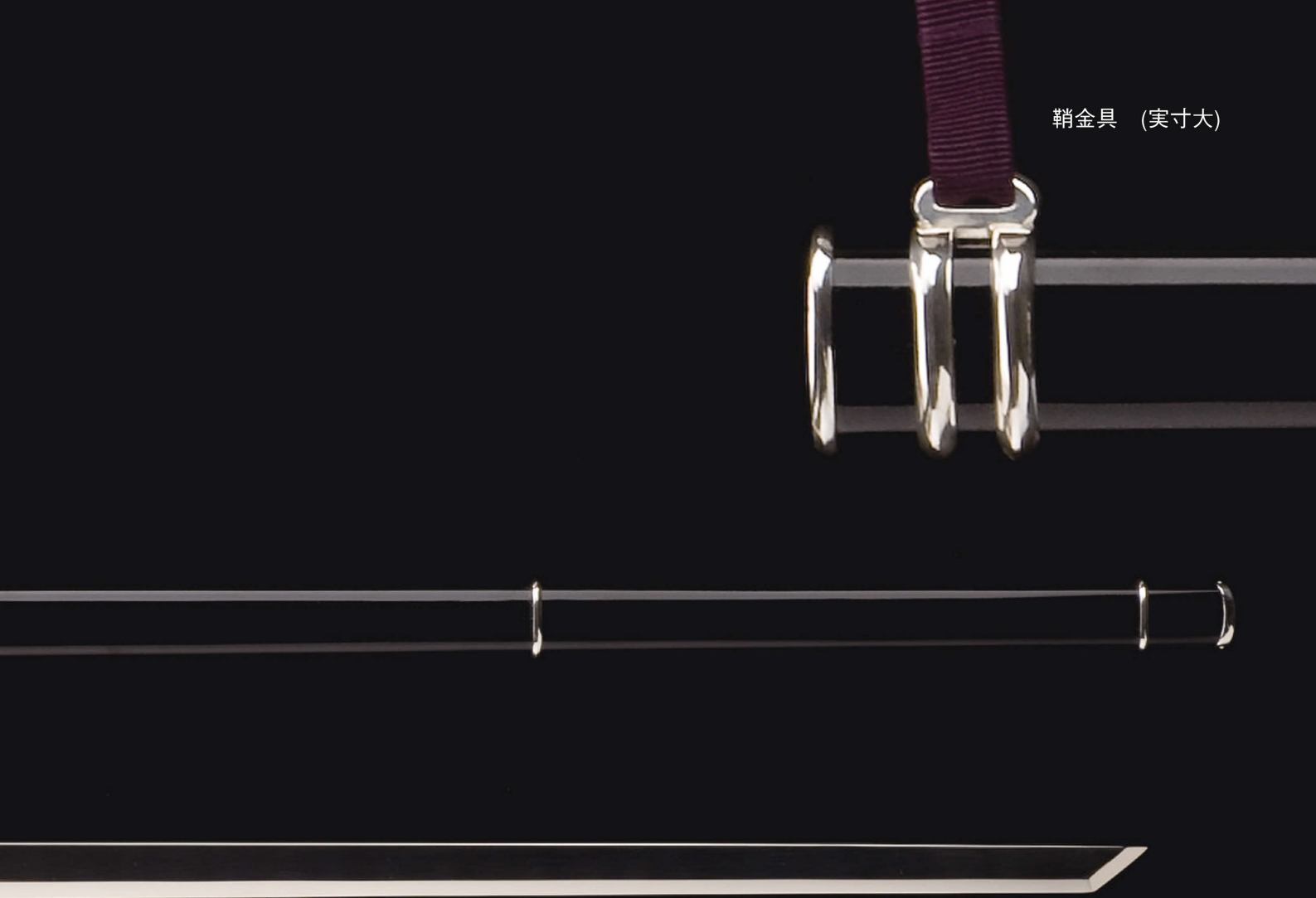
これは、奈良県明日香村キトラ古墳から出土した大刀の復元品です。キトラ古墳といえば四神や天文図、十二支像など石室に描かれた壁画が思い浮かびますが、石室からは大刀の破片や飾り金具など、豊富な副葬品も出土しました。

大刀は盗掘の際に壊され、小さな破片となっています。錆落としを進めるうちに、鞘に黒漆を塗り、銀の金具で飾っていることがわかりました。そこで、高松塚古墳や石のカロト古墳などの出土例を参考に全体像を推定し、約5ヶ月間かけて復元品を作りました。

完成した銀装大刀は長さ90.3cm、重さ672g。刀身の材質は真鍮製、金具は銀製です。表面に黒漆を塗り、把には鮫皮を巻いています。全体に派手さはないものの、洗練された美しさをもち、被葬者の身分の高さを感じさせます。これまで壁画が注目を集めてきたキトラ古墳ですが、副葬品もまさに一級品です。今後の展示等に活用したいと思います。

(都城発掘調査部 豊島 直博)

鞘金具 (実寸大)



鮫皮巻きの把部 (実寸大)